

第2期オバマ政権における高等教育政策の鍵を握る人物予測（11月8日）

11月6日の大統領選挙におけるオバマ大統領の再選により、引き続き教育省（Department of Education）が大学規制において主要な役割を果たすことなど、連邦高等教育政策の方向性が明らかになったが、一方で誰が高等教育政策立案の中心人物となるかについては、様々な予測がある。

特に、現教育長官のアーネ・ダンカン氏（Arne Duncan）と現教育次官のマーサ・カンター氏（Martha Kanter）の続投は確実視される中、高等教育イニシアティブの推進を統括する副次官候補に注目が集まっている。

現政権では、ロバート・シャイアマン氏（Robert Shireman）及びジェームス・クバール氏（James Kvaal）といった実力者が歴任した同職について、関係者の間では、ルミナ財団（Lumina Foundation）理事長のジェイミー・メリソティス氏（Jamie Marisotis）や、大学学位取得率向上を目的とした非営利団体コンプリート・カレッジ・アメリカ（Complete College America）会長のスタン・ジョーンズ氏（Stan Jones）などの名前が挙げると共に、クバール氏の再任や、計画・評価・政策開発担当教育次官補のカーメル・マーティン氏（Carmel Martin）、大統領府で高等教育を中心に上級政策顧問を務めたザキヤ・スミス氏（Zakiya Smith）なども候補と考えられている。

Inside Higher ED, Examining Who Could Shape Higher Education Policy in Obama's Second Term

<http://www.insidehighered.com/news/2012/11/08/examining-who-could-shape-higher-education-policy-obamas-second-term>